

# ぞうしがやフレーザーパーク通信 2021.10.24

◇日時：2021年10月24（日）午前10時30分～午後3時

◇天気：小雨のち晴れ

◇場所：豊島区立雑司が谷公園（芝生広場）

◇参加：150人程度

◇スタッフ：林、井上、浜野、水越、佐分、（午前のみ）高野

◇お手伝い：東京下町紙芝居 2名、坂田さん

◇来訪者：（西池袋そらいろ保育園）斉藤先生、

◇寄贈：

（豊島区社会福祉協議会）備蓄用菓子（ビスコ・ハーベスト）

（法明寺）段ボール製プレート50枚

（相良さん）ロール状の模造紙1巻

◇企画：

段ボール工作、木工・木の実工作、糸掛け曼荼羅、チョーク遊び、変装遊び

◇簡単報告：

◆緊急事態宣言明けの快晴、また小学校へのチラシ配布直後で、通常以上の沢山の参加があった。

◆ハロウィンの時期にからめて、寄贈菓子を参加者に受付で配布した。（名簿に記入した方に配布）

◆家具用の大きくて頑丈な段ボールがあったので、築山に滑り台を設置した。すると、寄贈品のダンボースプレートに紐をつかって、そりを作り、その上をすべる姿がたくさん見られた。想定していない使い方面白かった。

◆プレーリーダーが動物のかぶり物を持ってきてくれた。かぶっている人が何人かいるだけで、楽しい雰囲気になるので、いいアイデアだなと思った。

◆木工では、基本的にはポンド工作を行ったが、希望がある場合のみ、スタッフ又は大人が付き添ってノコギリを使ってカットした。備品にあるふみ台は、子どもがノコギリを切る台として使うには高すぎるため、低いノコギリ台を製作した。次回から使用することとする。

◆木工コーナーに靴をぬいであがり、モミジハフウの実を踏むと痛い問題があった。木工コーナーを土足にするべきか？検討課題。木工コーナーのシートがモスグリーン色で地面にも、材料にもなじみ、地面にある者が目立たない。作業スペースは、ブルーシート・オレンジシートなどのほうが良いかも。

◆木工・工作コーナーの道具類が、なかなか元の場所に戻らず、出しっぱなしになりがち。もう少し道具の案内看板の表示方法に工夫が必要かも。

◇その他：

◆穴を掘れる場所

以前、プレバスタッフでは、テニスコートとフェンス（手すり）の間スペースが、穴を掘っていい場所の候補として挙がっていた。しかし、国の助成金で芝生を植えたため、芝生を剥がして何かすることはできないとのこと。公園の滑り台がある側（芝生がない）に、穴が掘れる場所、ないし、砂場を整備する方向で検討したらどうだろうか。

滑り台の下の斜面を、保護者や子どもが通るため、斜面が削れてガラス片が露出して危ないことがある。

この安全対策と合わせて整備すると進むかもしれない。

公園や丘の上テラスの清掃をするシルバー人材にとっては、泥で建物の中が汚れることは嫌がられる。土遊びと手足洗いが、滑り台側で完結するような場所をつくることを提案してはどうだろうか。

来年度以降、公園利用者に聞き取り調査をすることを検討する。

◇次回（11月28日）に向けて：

◆行事保険申し込み（11月分）、木工用ポンド、ガムテープ、紙粘土、クランプ購入